

(四)

たためぬ。感情が發育しそくなつたような金持ちの子を、いろいろ苦心して感情のとびらを開かせてやつて、自分自身の面を描くようにならせたことを実にハツキリと強く書いてある。(家永勝之亮)

教育研究会應託・土曜会研究所

「坂田のせんさんに詣つたらどうじやないか」

「そんなの、古いぞい」

「この本は、キリスト教の福音

ていつた。月の淡い宵だつた。

「清治君の病氣を早くが想像するところでは、一過性熱にともなう消化不良と想ふ。一過性熱とは俗に寄りが俗にいう知照熱だよ。乳児の時期と怪ハコノラやチブスや

来ればそれでいいとぼくは思う」  
疊の上でコーヒートをのみながら  
の話だが、医者が軍医にみえはじ  
めると、盛男は、敵の砲撃のジ  
ヤングルの中で、今日限りと思う

去年の不安

「帰つたよ、どうだい調子は」

六年の不  
草村

えて、盛男にしては先妻との間に  
子供がなく、初めてのが子はい  
とおしくてたまらず、愛られる病  
氣なら愛つてやりたい衝動にかき  
たてられるのだつた。

重子にしても菅原に経験がなく

安  
甚平

坂田のせんさんのせんはどういう字か知らないが、昔からの祈とう師で、おぼらしいをしては薬草をあたえ、里の母は医師の注射など一應もしたことがな、いろいろな病気がお詣りで快くなつたというのである。奨められるとおり明る日、盛男を留守にして母と重子に清治を連れて、坂田のせんさんに詣りに行つた。万が一、良くなばらんと想うと、盛男は引止める氣力になかつた。そうして一人留守居していると不安は不安を積み落つたかぬ時間の中にいた。その

ることによつて安心するものがあった。

宗教とは？ 妻の蓮子にも云えない新しい興味がある。創価学会へ足を運ぶのだ。今までは金さえあれば、地獄の沙汰も金次第というように、金さあれば押さるゝものも不安もないと考えて、酒ものますり貯金してきたのに、宗教とは？ さきに妻の死を経験し、濁世の死を予感したり、はたまた自分の死を思うに至つては、何故

英判人の伝道をしていたとき、男運の勤くこの仄陰で動いてゐる一英國人が、この人は戦争中捕で十八年の暮から敗戦まで畫圖とともに働いていたワットソンんです。この英國人なら預つてた福音書です。日本に歸つたら是非貴方方にこれを送り、その折お世話になりましたと礼をのべ下さいとの事でした。そして、の福音書に依つてより多く幸せになりますように祈つてゐる。と事です。どうか皆さん、ワットソンの

貴族の地位をなす病に犯されて、その一つ一の免疫にして来るんだ。切らさずが直るのに一定時間が要するうちに、一過性熱にも種々、定まった時間があると思はる。折と折に語つたから快くなったとか、何々宗教を信じたから肉体の病気が直る事はない。病気の快くなる時期と語つた時間が一致した事ではないか、ね。肉体の病気の世話に医師にまかせてもらおうかハハハ。

炎症菌にペニシリン菌が特効するよるうちにだね、肉体という物質には、粉薬、水薬、注射など物質に頼らばよくない。

「そういうものををばくは、習は  
英國人のえーなんと云つたね。  
うん、ワットソンさん。その人か  
らもらった聖書と同じもので救主  
を信じ、今もバプテストしている  
んだが最早、ぼくには永遠の生命  
があり、死に対して不安もなけれ  
ばこの世のあせりもないんだ」  
落胆には、悪い出の死の驚愕と  
やがては来るであろう死とが潮の  
うず瀝の如く我が胸にさわきたて  
るといふびみょうぼうれんげきよ  
うーさうす潮の中に投げ込んだ。

「相違ひす。乳は吐いてても時間  
が来たら飲まなきゃいひつて」  
盛男は二人の尻元に墮つた。生  
後五カ月の清治が暴跳し、乳は吸  
うけれども二十分前後の時間が来  
ると吐き出し、それが四日も続い  
てはば青白くなり衰弱が目にあ

全く医前に懸念を欠かぬ。著う  
られるままに杯に粉薬を湯でとか  
しては無患矢理清治の口を開けて  
のましたり、婦人雜誌の附録など  
読みあさつたり、その努力はいた  
まじい程だつた。

清治の病氣が九日目、嵌軀動め

「そんな事があるもんか。石にかじりついてこの子を産もうとぞ、鑢りつけた清治の誕生の目を悪い出しでは、なお、不安はつのもり」

「まだ病院へいかぬのか」

盛男も今日については行き、医局

「盛さんいるか？」  
と来たのは同じ職場の青木である。幾日も休んでいたので病気ではないかと見舞いに来たというのがその実、創価学会に入会せんかと奨めに来たのだ。盛男は四十のこ



がら受け  
つて下さ  
私、  
男方に逢  
責任が果  
て非常に

隣男もそうだと憐れうのだが、そんな話よりジャングルの中で聞いたような話が怪しいといったが「まあまあ、聴きたまえ。薬で喰らぬ病気が一つある。例えばだとならぬ病気がをしたとする。医者らは

野間 宏

芸能人の世界  
の悪をえぐる  
「成功の甘き香り」

人の世界  
をえぐる  
功の甘き香り」

うにあかかわれず、まだまだ盛り返て彼女の兄ハンゼツカールの干渉であつた。ステイーウは、表面彼と闘うようすめるがスーザンは決心がつかない。

に熱心な愛情を見せるハンゼツカールを信用せず、またシドニイをハンゼツカールのスパイと見て警戒し、ハンゼツカールのライバルであるオテイディングは、やはり膏桐家でハンズ・エルウェル(デウィット・ボ

それでいて炭鉱の病院は患者の多いせいか、それとも毎日の仕事になれっこなのか。

「大丈夫と想いますよ。癒もとれましたし」

などとあしらつては盛男に満面「なにあとてくれなうつ。盛男は」

かつた。お寺とか教会とかは、彈式の手段として存在している位に思つてゐた。それが、兎舞ひに來たはずの青木が、僥倖もなきに於て熱心に説教聞かす宗教の話、半強制的な創価学会の入会勧誘に対しては、可憐対峙すべきものがある。

「ただな  
もらおう、  
という気  
の者の多  
中で盛男  
宗教とい

つて手当をする。これは直接患部を治療だ。そして、場合によつては輸血し或はリンゲル、氷枕、鎮静剤の注射など、間接患部の治療をする。こうして第一の治療をするが、もう一つ、医者として治療すべきは、首の血流を改善することである。これは直接患部を治療するのではなく、首の血流を改善することである。これは直接患部を治療するのではなく、首の血流を改善することである。

に近いものになっているが、今後  
もつとぎつめて人間の追求には  
くつとほしく願う。

———

● 今週の映画 ●

★セントラル(5-11) 成功の甘

ワイト)。を攻めてに欺き  
伏せ、ある歌手が麻薬  
中毒で共産主義者だと  
云う記事をかかせる。  
勿論その歌手とはステ  
ィーヴであることを暗  
示させてある。その結  
果スティーヴはたちま  
ち失業してしまつた。  
スティーヴはシドニイ  
の計略を責め、シドニ  
イは彼を侮辱する。こ  
の様子を見てシドニイ  
を愛していた秘書さ  
えも彼から離れて行く。

「何が原因で、何病で、こんな病状に陥つたのか、さういふ事は大体何日位でどんな風に成つたのか、さういふ事が聴きたかつた。讀子にしても信頼して居た医師が、目がつたにつれうすれゆく信頼をどうしようもなう。

病院から帰ると里の母が来ていた。様子に施座していたが、そこを去つた。様子は社宅の気配さで、母は隣りに待つて居て、喬治の病氣のことを案じて居る今日このごろの事もあらましは聞いたとみえて

「十日近くも病氣だつて」しじみと孫をみながら「ほんやとせたね。……盛男さん、

した。何處か処女を娶つてゐるが、  
かつた。まして人間の死に對する  
不安に托のいてゐる今の今、青  
木にまかせ、青木を信頼することに  
依つてゐる抱いてゐるものも、  
瀧治の病氣さえも瞞るような気持  
になつた。青木は折伏に成功して  
意氣揚々と引き歸つていつた。

その翌日、不慮、吐乳は快く  
なつた。乳を吐く動作はするが、  
その時、重子は坂田のせんさんが  
教えたように背をかるくさすりな  
がら愈ふとなへ、盛男は心の中  
で「なむみようほうれんげきよ」と  
何回も繰返してゐた。医師の薬  
よりもそうすることによつて瀧治

か、創価学会が身近なものに感ぜずにはいられなす。

乳が身につくと清治は日一日と健康を取りもどしていつた。家庭も明るさを取りもどし、盛明は妻と創価学会のことなどについて語り合つたり、青木に教えられるままに、朝夕築地のつとめなしたりして、どこをのぞいても菊の花が見られる季節になつたころ、職場の保安常会の終つてから、新約聖書というものをもらった。その折、東京の青山学院大学教授の人はかるばかるこの脱坑に来ていて

て、よい

聖歌を捧えきれた。そして、キリスト教を聴いた瞬間浦川軍を思ひ出した。南方戦線のシヤ、救いだの罪だの、キリストの十字架だのきいた事があつたがはつきり記憶に無い。

そのキリスト教の福音書を今も握てじつと見ていると浦川軍医、この人は盛男と同時に復讐してきて、現在、炭鉱のあるこの街で、春の戦友会の会場で述べては、親しく語りあつた仲である。その浦川軍医師は今もキリスト教の

つ　　ふ　　言　　米　　距　　そ　　に  
す　　ま　　ん　　医　　て　　う　　る  
は、解消していつたとしてもだ。死ぬかとも知れない、死ぬもんな。いゝやわならない。どうもそんな気がする。そんな不安だ。死を予期しないんだ。肉体的に健康な人でも出来ないんだ。死を予測した時、否、それ以外の不安という心の病氣をだ。肉体の病氣者は心の病氣は置せないんだね

空、香り、夜の豹  
 ★太陽館(5-11) 負ケラレマセ  
 ン勝ツマデハ、社長三代記  
 ★東映(5-11) 曲馬団の娘、  
 天空の白馬  
 ★大天地(5-11) その手にのる  
 な、永遠に答えず(完結)  
 ★銀星(1-4) グレンミラー  
 物語、ラブソディ  
 ★大牟田名画座(5-8) 悪魔を  
 やつつけろ、背高キデキサス人  
 ★荒鷲名画座(6-11) 滅びゆく  
 大草原、ふんだりけつたり  
 ★新世界(5-11) 枯葉、女ひと

選評

野間 宏

はじめてめくまれた子供の病氣のために、創樹学会やキリスト教などの宗教にひかれていく労働者婦を描いている。全体としては散漫で小説というより儼然文に近いものになつてゐるが、今後つつときつめて人間の追求にはつひつとつと進め。

|| 今週の映画 ||

セントラル(5-11) 成功の甘  
き香り、夜の豹  
太陽館(5-11) 負ケラレマセ  
ン勝ツマデハ、社長三代記  
東映(5-11) 曲馬団の娘、  
天空の巨鷹  
大天地(5-11) その手にのる  
な、永遠に逢えず(完結)  
銀星(1-4) グレンミラー  
物語、ラフソディ  
大牟田名画座(5-8) 悪魔を  
やつつけろ、髑髏キチカス人  
権益名画座(6-11) 滅びゆく  
大草原、ふんだりけつたり  
新世界(6-11) 枯葉、女ひと